

2019年度

事 業 報 告

公益財団法人日本障がい者スポーツ協会

《 目 次 》

I 総括	1
II 2019年度の具体的な施策	
アクションプラン1 スポーツ施策の一元化	2
アクションプラン2 障がい者スポーツ振興体制の整備	2
アクションプラン3 障がい者スポーツの普及・振興	6
アクションプラン4 国際競技力の強化	8
アクションプラン5 障がい者スポーツの国民理解の促進	12
アクションプラン6 障がい者スポーツの支援体制の充実	13
アクションプラン7 財政基盤の充実・安定化	14
アクションプラン8 協会の組織体制の強化	15
アクションプラン9 クリーンでフェアなスポーツの推進	15
アクションプラン10 スポーツを通じた女性活躍の促進	16
アクションプラン11 東京2020大会の成功に向けて	17
アクションプラン12 東京2020大会のレガシー継承	19
その他	19

I 総括

当協会は、平成25年3月に公表した「日本の障がい者スポーツの将来像(ビジョン)」において掲げている「活力ある共生社会の創造」の実現に向けて、①スポーツの普及拡大(裾野をひろげる)、②競技力の向上(山を高くする)の二本柱を基本としつつ、アクションプランに沿った取り組みを進めてきた。一昨年、これまでの達成状況、障がい者スポーツを取り巻く環境の変化及びスポーツ庁の第二期スポーツ基本計画に盛り込まれた課題を踏まえ、アクションプランの見直しを行ったので、本年度は、これに基づき事業を推進した。

障がい者スポーツの振興体制の整備については、スポーツ施設管理者を対象とした研修をはじめ、障がい者スポーツ指導員等に係る各種研修の実施、都道府県・指定都市の障がい者スポーツ協会(以下「県等スポーツ協会」という)の活動を支援する助成金交付などの組織への支援、障がい者が地域で日常的にスポーツに参加できる環境の整備のために総合型地域スポーツクラブにおける障がい者スポーツの導入支援などを継続し、指導者の活動の場を拡充する方策については、特別支援学校の体育授業等に関して障がい者スポーツ指導員の派遣を行うほか、行政・県等スポーツ協会・指導者協議会からなる障がい者スポーツブロック別連絡協議会において、各関係機関等と十分連携しながら障がい者スポーツの振興に併せ、指導者の活用などについての環境整備を進めた。

障がい者スポーツの普及・振興並びに国民理解の促進については、国民への障がいの理解や障がい者スポーツの理解促進を図るため、冊子の作成・配布、障がい者スポーツ体験会等の実施、ソーシャルメディアを活用した広報活動を図るとともに、全国障害者スポーツ大会や競技別大会の開催、障がい者スポーツ指導者の養成等の事業に取り組んだほか、日本スポーツ協会、日本レクリエーション協会、関係学会等との連携を深め、障がい者のスポーツ活動が、より身近なものとなるよう積極的な活動を推進した。

競技力の向上については、引き続き「東京2020特別強化委員会」等において、特別強化選手・チームへの支援、専任スタッフの充実、医科学情報の支援等を行い、選手の競技力向上、メダル目標達成に向けた取り組みを行うとともに、東京2020パラリンピック競技大会に出場するアスリートにとって最高の環境で最高のパフォーマンスが発揮できるよう東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会、内閣府・スポーツ庁、JSC等関係機関・団体との連携や、民間企業からの支援充実などの取り組みを行うとともに、NTCイーストなどの練習環境の整備・確保、国際大会の開催などの取組を行った。

また、スポーツ界におけるインテグリティが大きな問題となり、昨年の6月にスポーツ庁が策定した「スポーツ団体ガバナンスコード」について、競技団体に対し、周知を図るとともに、ガバナンスコードに基づく適合性審査の実施に向けた準備を他の統括競技団体(日本スポーツ協会・日本オリンピック委員会)とともに行った。

II. 2019年度の具体的な施策

アクションプラン1. スポーツ施策の一元化

1. スポーツ団体との連携

スポーツ庁、日本オリンピック委員会(JOC)、日本スポーツ協会(JSPO)、日本スポーツ振興センター(JSC)、日本パラリンピック委員会(JPC)トップによる「5者懇談会」を実施。

2. 都道府県におけるスポーツ関係団体の連携支援

都道府県・指定都市行政、県等障がい者スポーツ協会、県等指導者協議会の3者による障がい者スポーツ連絡協議会を今年度も全国8ブロックで開催し、各都道府県・指定都市におけるスポーツの施策一元化とその動向や障がい者スポーツの地域振興体制の構築を進めるための情報交換や意見交換を行った。

3. 障がい者スポーツの学術的振興

IPCが主催するスポーツ医科学会議であり、科学者と障がい者スポーツの専門家らが研究成果を発表し意見交換を行う場であるVISTA会議の2021年度の日本招致に向けた取り組みを本格化させたが、東京2020パラリンピック競技大会の延期に伴い、予定していた実施期間が重なることから誘致を辞退した。

4. 学校教育のなかでの理解の促進

学校教育のなかでの障がい者スポーツの理解促進とスポーツ環境の充実を図った。

IPC公認教材「I'm POSSIBLE」(中高生版)2授業分を作成した。

I'm POSSIBLEを活用したパラリンピック教育の充実を図るため、教材の使用法やその意義等に関する教員研修等の支援を図るとともに、教育系雑誌等に寄稿するなど普及促進に努めた。

また、インクルーシブな世界の実現を目指し、特に優れた取り組みを行った学校を東京2020パラリンピック競技大会の閉会式で表彰する「I'm POSSIBLEアワード」の日本事務局を日本財団パラリンピックサポートセンターとともに運営し、国内最終選考委員会を開催した。

アクションプラン2. 障がい者スポーツ振興体制の整備

1. 障がい者スポーツ指導者の育成と活動の場の拡充

(1) 障がい者スポーツ指導者養成事業

1) 初級及び中級障がい者スポーツ指導員養成講習会の認定

都道府県・指定都市、県等障がい者スポーツ協会、その他関係機関が実施する初級及び中級障がい者スポーツ指導員養成講習会の認定を行った。

【2019年度 障がい者スポーツ指導員養成講習会】

(協会委託事業分を除く)(令和2年3月末現在) ※振興事業初級12件、中級4件

・初級障がい者スポーツ指導員養成講習会(計 70 カ所)

都道府県・ブロック主催	52 カ所
政令指定都市及び特別区主催	17 カ所
その他関係団体主催	1 カ所

・中級障がい者スポーツ指導員養成講習会(計 8 カ所)

① 初級障がい者スポーツ指導員対象 (都道府県主催)	5 カ所
② 日本スポーツ協会公認指導者対象(都道府県主催)	0 カ所
③ 理学療法士対象(日本理学療法士協会主催)	2 カ所
(都道府県主催)	1 カ所

2) 障がい者スポーツ指導員等各種養成講習会の開催

講習会名	開催期日	開催場所	受講者数
上級障がい者スポーツ指導員養成講習会	前期 2019年 8月29日(木)～9月1日(日) 後期 2019年10月31日(木)～11月3日(日)	福岡市立障がい者スポーツセンター	39名
中級障がい者スポーツ指導員養成講習会(1)	前期 2019年7月10日(水)～7月14日(日) 後期 2020年1月22日(水)～1月26日(日)	とちぎ福祉プラザ 障害者スポーツセンター	32名
中級障がい者スポーツ指導員養成講習会(2) ※日本スポーツ協会公認指導者対象	2019年10月19日(土)～10月22日(火・祝)	名古屋市障害者スポーツセンター	30名
中級障がい者スポーツ指導員養成講習会(3) ※日本スポーツ協会公認指導者対象	2019年11月22日(金)～11月25日(月)	東京都障害者総合スポーツセンター	42名
障がい者スポーツコーチ養成講習会	前期 2019年 6月28日(金)～6月30日(日) 後期 2019年12月13日(金)～12月15日(日)	国立スポーツ科学センター	30名 (合格者)
障がい者スポーツトレーナー養成講習会	1次 2019年8月9日(金)～8月11日(日) 2次 2020年2月6日(木)～2月9日(日)	障害者スポーツ文化センター 横浜ラポール	30名 (合格者)
障がい者スポーツ医養成講習会	2020年2月21日(金)～2月23日(日)	国立障害者リハビリテーションセンター	66名
全国障害者スポーツ大会障害区分半定研修会	2019年7月6日(土)～7月7日(日)	鹿児島県障害者自立交流センター	56名
障がい者スポーツトレーナースキルアップ研修会	2019年11月9日(土)～11月10日(日)	愛知医療学院短期大学	31名
資格取得認定校研修会	2019年9月9日(月)	大阪市長居障がい者スポーツセンター	42名
第15回障がい者スポーツ指導者全国研修会	2020年2月15日(土)～2月16日(日)	旭川医科大学	126名

JPSA が主催して行う障がい者スポーツを支える指導者の養成及び専門性の高い有資格者の育成並びに資格保有者のレベルアップにつながる講習会、研修会を開催した。

(2) 初級障がい者スポーツ指導員等養成講習会開催事業(協会委託事業)

県等障がい者スポーツ協会に対し、初級・中級障がい者スポーツ指導員養成講習会や指導者の資質向上の研修会の開催を助成し、地域振興に欠かせない人材養成に積極的に取り組む為の事業を推進した。(15 団体 18 事業)

No.	団体名	委託費 (万円)	事業 区分	事業名
1	一般社団法人岩手県障がい者スポーツ協会	60	中②	理学療法士のための中級障がい者スポーツ指導員養成講習会
2	石川県障害者スポーツ協会	25	初①	初級障がい者スポーツ指導員養成講習会(小松会場)
3	一般社団法人群馬県障害者スポーツ協会	25	初①	群馬県初級障がい者スポーツ指導員養成講習会
4	一般社団法人岐阜県障害者スポーツ協会	25	初②	2019年度初級障がい者スポーツ指導員養成講習会
5	社会福祉法人大阪市障害者福祉・スポーツ協会	17	初②	2019年度大阪市スポーツ推進委員対象障がい者スポーツ指導員養成講習会
6	公益財団法人兵庫県障害者スポーツ協会	25	初①	第41回兵庫県障がい者スポーツ指導員養成講習会(仮称)
7	社会福祉法人神戸市社会福祉協議会	25	初②	2019年第33回初級障がい者スポーツ指導員養成講習会
8	和歌山県障害者スポーツ協会	25	初①	2019和歌山県初級障がい者スポーツ指導員養成講習会
9	公益財団法人島根県障害者スポーツ協会	25	初①	2019年度 島根県障がい者スポーツ指導員養成講習会
10	一般社団法人	100	中①	令和元年 中級障がい者スポーツ指導員養成講習会
11	広島県障害者スポーツ協会	60	中②	令和元年 中級障がい者スポーツ指導員養成講習会(理学療法士対象)
12	愛媛県障がい者スポーツ協会	100	中①	愛媛県中級障がい者スポーツ指導員養成講習会
13	一般社団法人佐賀県障がい者スポーツ協会	25	初①	初級障がい者スポーツ指導員養成講習会(佐賀)
14	北九州市障害者スポーツ協会	25	初①	平成31年度初級障がい者スポーツ指導員講習会
15	大分県障がい者体育協会	25	初②	大分県障がい者スポーツ指導員養成講習会
16		25	スキル	大分県障がい者スポーツ指導員特別研修会
17	特定非営利活動法人	25	初①	沖縄県初級障がい者スポーツ指導員養成講座
18	沖縄県障がい者スポーツ協会	30	スキル	沖縄県障がい者スポーツ指導員スキルアップ研修会
合計		667		

2. 県等障がい者スポーツ協会の運営支援

(1) 地域における障がい者スポーツの振興事業(協会委託事業)

障がい者が、身近な地域で自主的・積極的・継続的にスポーツに参加できる環境づくり目指し、県等障がい者スポーツ協会と連携して地域における障がい者スポーツ振興の課題解決のきっかけとなる次のような事業を実施した。

事業は、障がい者スポーツ指導者やスポーツ、福祉、医療等の関係団体、学校等の教育機関等との連携や協働を図りながら、障がい者向けのスポーツ教室やイベント等を実施する団体に対し助成した。(全国13協会で実施)

No.	団体名	委託費 (万円)	受託 数	事業名
1	公益財団法人北海道障がい者スポーツ協会	80	6年目	北海道における障がい者スポーツ拠点づくりプロジェクト事業
2	一般社団法人岩手県障がい者スポーツ協会	150	3年目	スポーツを通じた各種団体連携による共生社会づくり推進事業
3	公益財団法人長野県障がい者スポーツ協会	100	4年目	長野県障がい者スポーツ活動環境推進事業
4	三重県障がい者スポーツ協会	150	3年目	三重県障がい者スポーツ振興事業
5	公益財団法人兵庫県障害者スポーツ協会	150	5回目	障害者スポーツ連携推進プロジェクト2019
6	和歌山県障害者スポーツ協会	200	3年目	和歌山県における障害者スポーツの振興事業
7	公益財団法人島根県障害者スポーツ協会	50	4回目	障がい者スポーツ教室「ポッチャ指導者養成講習」「ポッチャ交流大会」

No.	団体名	委託費 (万円)	受託 数	事業名
8	一般社団法人広島県障害者スポーツ協会	80	4年目	広島県における障害者スポーツ振興・地域推進事業
9	公益社団法人山口県障害者スポーツ協会	60	7年目	山口県における障害者スポーツ推進事業
10	徳島県障がい者スポーツ協会	50	初	障がい者のスポーツ活動推進事業
11	社会福祉法人高知県社会福祉協議会	150	5回目	障害者スポーツ普及啓発事業
12	一般社団法人佐賀県障がい者スポーツ協会	110	2年目	佐賀県障がい者スポーツ普及推進事業
13	大分県障がい者体育協会	200	3回目	地域における障がい者スポーツイノベティブ事業
合 計		1,530		

3. 障がい者スポーツ指導者の派遣事業(協会委託事業)

都道府県・指定都市の障がい者スポーツ協会および障がい者スポーツ指導者協議会が、近隣の特別支援学校・学級などの教育機関または教員等と連携・協働し、障がい児・者のスポーツ環境の更なる充実や障がい者スポーツ指導者の活動の拡充など障がい者のスポーツ振興体制整備に寄与することを目的とする障がい者スポーツ指導者の派遣事業を継続して実施した。

具体的には、地域の特別支援学校及び学級へ専門的な知識を有する公認障がい者スポーツ指導者を派遣し、在籍および地域の障がい児・者に対し多様なスポーツ機会の提供と技術的な指導を行い、身近な指導者を派遣するとともに学校の設備を使用することで、日常かつ継続的にスポーツへ触れる機会の定着化を目指した。(全国2箇所を実施)

No.	受託団体名	委託費 (万円)	受託数	事業名
1	新潟県障害者スポーツ協会	24	初	知的障がい者バスケボール交流会
2	大阪府障がい者スポーツ協会	25	2年目	大阪府内 支援学校・学級等 スポーツ指導員派遣事業「学校でいっしょにスポーツしよう！」
合計		49		

4. 障がい者スポーツ振興体制の整備に関する専門委員会の開催

1) 技術委員会の開催

- ①全体委員会(委員長、3副委員長、3部会委員による委員会) 計1回
- ②競技部会(全国障害者スポーツ大会に関する検討部会) 計3回
- ③育成部会(指導者制度、養成に関する検討部会) 計4回
- ④推進部会(地域における障がい者スポーツの振興に関する検討部会) 計3回

2) 医学委員会の開催 計2回

3) 科学委員会の開催 計3回

5. 障がい者スポーツ指導者の活動に関する委員会の開催

1) 指導者協議会 運営委員会の開催 計2回

2) 指導者協議会 事業部会の開催

- ①研修部会 計2回
- ②情報部会 計2回
- ③指導部会 計3回
- ④トレーナー部会 計3回

アクションプラン3. 障がい者スポーツの普及・振興

1. 第19回全国障害者スポーツ大会(茨城大会)

本大会は、台風19号の直撃を受けることとなるため、スポーツ庁・茨城県と協議し、中止の決定をした。なお、これまでの19回の大会史上、初めての全日程中止となった。

(1) 本大会(公益財団法人JKA補助事業) —中止—

会 期 令和元年10月12日(土)～14日(月)

開会式会場 笠松運動公園陸上競技場

愛 称 いきいき茨城ゆめ大会

大会スローガン 翔べ 羽ばたけ そして未来へ

(2) 地区予選会(公益財団法人JKA補助事業)

会 期 平成31年4月～令和元年6月

内 容 ブロックごと(北海道・東北ブロック、関東ブロック、北信越・東海ブロック、近畿ブロック、中国・四国ブロック、九州ブロック)に身体障がい者、知的障がい者及び精神障がい者の団体競技について予選を実施。

2. 全国障害者スポーツ大会の内容充実

(1) 全国障害者スポーツ大会 在り方委員会の開催

全国障害者スポーツ大会の「スポーツを通じて障がい者の社会参加の推進に寄与する。」という目的を継承し、その意義、位置付けなど将来のあるべき姿を中長期的かつ総合的に協議する。

日 時 令和2年3月11日(水)13:30～15:30—中止—

場 所 日本障がい者スポーツ協会会議室

(2) 全国障害者スポーツ大会 大会委員会の開催

平成27年度に全国障害者スポーツ大会在り方委員会にて、まとめられた大会の今後の在り方の提言を受け、全国障害者スポーツ大会開催基準要綱の見直しや、競技・種目の変更・施行時期の調整及び各種課題については技術委員会との連携のもと協議した。また、今年度の委員会では、第19回全国障害者スポーツ大会が台風の影響で中止となったことを受け、この事例を今後の大会運営・競技運営に活かしていくために、茨城県からの報告や後催県の意見、日本スポーツ協会での取り扱い等を参考に「大会開催基準要綱」の一部見直しや荒天時等の対応について協議し、「全国障害者スポーツ大会荒天時等対応要領」を新たに作成した。

日 時 令和2年1月28日(火)13:30～15:30

場 所 日本障がい者スポーツ協会会議室

(3) 全国障害者スポーツ大会ボッチャ競技 審判養成講習会開催事業

令和3年度の三重大会より、実施される「ボッチャ競技」の審判養成講習会を一般社団法人日本ボッチャ協会と連携し全国で開催した。

全国障害者スポーツ大会の予選会および本大会におけるボッチャ競技を円滑に運営し、審判員として必要な知識や技術を習得した人材の養成を図ることを目的に開催した。

全国障害者スポーツ大会の後催県2会場では、開催地域の参加者に対象を絞り、大会開催運営を視野に入れた内容を実施し、また、全国の審判をめざす指導者を対象とした養成講習会を2会場にて実施した。併せて、現審判資格保有者に対して、全国障害者スポーツ大会に向けたルールの伝達検討会議を実施した。

No.	会 場		日 程 参加人数	実 施 体 制
1	栃木県	にしなすの運動公園体育館	10月27日(日)	主催: 日本ボッチャ協会 後援: 栃木県 協力: 栃木県障害者スポーツ協会、とちぎボッチャ協会
			58名	
2	三重県	三重県身体障害者 総合福祉センター 体育館	11月10日(日)	主催: 日本ボッチャ協会、 三重とこわか国体・三重とこわか大会実行委員会 協力: 三重県障害者スポーツ協会、みえボッチャ協会
			44名	
3	大阪府	大阪市舞洲障がい者 スポーツセンターアミティ舞洲	11月16日(土)	主催: 日本ボッチャ協会 後援: 大阪府 協力: 大阪府障害者スポーツ協会、大阪ボッチャ協会
			57名	
4	東京都	世田谷区立希望丘地域体育館	12月15日(日)	主催: 日本ボッチャ協会 共催: 世田谷区、公益財団法人世田谷区スポーツ振興財団 協力: 東京都障害者スポーツ協会、東京ボッチャ協会
			59名	
内 容	講 義 ①; 競技の概要 全国障害者スポーツ大会におけるボッチャ競技の全体像 講 義 ②; 審判員の動き ボッチャ競技における審判員の動き 実 技 ①; 試合の流れ 実際に試合を通して、講義で説明された競技の流れを確認する。 実 技 ②; 審判員実技 相互審判を通して、審判の動きを習得する。			

3. スポーツイベントの開催

(1) 障がい者スポーツ理解促進フェスティバル開催事業(ジャパンスポーツフェスタ)

共生社会をめざしたスポーツ環境の体制整備に向け、理解者、支援者、応援者の拡大を図ることを目的として、JPSA が主催団体となり、日本スポーツ協会、日本オリンピック委員会、開催地の障がい者スポーツ協会、県体育協会等と連携し、障がい者スポーツに日頃関わりの少ない地域住民(スポーツ少年団、総合型地域スポーツクラブ、スポーツ推進委員など)を対象に障がい者スポーツを見て、体験する事業を実施した。

開催日 令和元年 12月7日(土)12:15~16:30

場 所 秋田テルサ

内 容 ○みんなでスポーツを楽しもう! アクティブ・チャイルド・プログラム
○車いすスポーツ体験! チャレンジ! 車いすバスケットボール
○オリンピック・パラリンピアンから学ぼう! (トークショー)

参加者 参加者 125名、保護者 17名、メディア 1名 (合計 143名)

4. 調査研究事業

専門委員会等で調査研究事業を実施。

○科学委員会

・パラアスリート暑熱対策研究事業

暑熱対策に関する実証測定と自律神経バランス測定及び WEB アンケート調査を実施。

5. 障がい者のスポーツ実施率向上(スポーツの日常化)に向けた取り組み

第二期スポーツ基本計画では障害者のスポーツ実施率の向上(週1回以上が40%程度、週3回以上が20%程度となることを目指す)を謳っている。障がい者が身近な地域でスポーツを楽しむことが出来る環境づくりのため、地域におけるスポーツ教室の開催を拡充し、その後スポーツが継続できるよう、サークルやクラブ活動の活性化に努めた。また、総合型地域スポーツクラブ施設管理者の理解促進、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者や学校教員等に対し、障がい者

スポーツ指導者資格取得を促進するとともに、全国特別支援学校長会や医療関係者(PT 協会)との連携を図った。

6. スポーツ施設の利用拡大・理解促進

日本体育施設協会主催のスポーツ施設管理者に対する障がい者への対応講習会に協会として協力し、地域における障がい者のスポーツ参加の場づくりの支援を行った。

アクションプラン4. 国際競技力の強化

1. 国際障がい者スポーツ総合大会への選手及び役員の派遣

パラリンピック・デフリンピックをはじめとする4年に1度開催される障がい者別の国際総合大会に選手及び役員を派遣した。なお、4大会の派遣予定であったが2大会は中止・延期となった。

(1) アジア太平洋ろう者競技大会(全日本ろうあ連盟派遣) —中止—

大会名称 第9回アジア太平洋ろう者競技大会
大会期間 令和元年11月1日(金)～11日(月)
大会場所 香港(シャーンティン・沙田地区)
実施競技 陸上競技、バドミントン、バスケットボール、ビーチバレーボール、ボウリング、サッカー、フットサル、柔道、水泳、卓球、テコンドー、テニス
※ 下線は日本選手参加予定競技

日本選手団 選手103名、役員48名、本部役員19名 計170名

※ 香港の情勢により大会開催中止となった。

(2) デフリンピック冬季競技大会(全日本ろうあ連盟派遣)

大会名称 第19回冬季デフリンピック競技大会
大会期間 令和元年12月12日(木)～21日(土)
大会場所 イタリア
① アルペンスキー、スノーボード、クロスカントリー
【会場 Santa Caterinabdi Valfuwa(サンタ・カテリーナ・ヴァルフルヴァ)】
② アイスホッケー、チェス 【会場 Chiavenna(キアヴェンナ)】
③ カーリング 【会場 Madesimo(マデージモ)】

実施競技 アルペンスキー、クロスカントリースキー、スノーボード、カーリング、アイスホッケー、チェス ※日本は下線競技のみ参加

日本選手団 選手15名、役員14名、本部役員18名 計47名

成績 入賞6名(11種目) メダル無し

(3) ブリスベン 2019 INAS グローバルゲームズ

大会期間 令和元年10月12日(土)～19日(土)
大会場所 オーストラリア・ブリスベン
日本選手団 選手57名、役員34名、計91名
実施競技 陸上競技、バスケットボール、フットサル、水泳、卓球、自転車、テニス、クリケット、テコンドー、ボート ※日本は下線競技のみ参加

成績 金メダル9個、銀メダル12個、銅メダル15個 計36個

(4)IWAS ワールドゲームズ 2020 —延期—

大会期間 令和2年2月20日(木)~28日(金)

大会場所 タイ・ナコーンラチャシーマー

実施競技 アーチェリー、陸上競技、バドミントン、自転車競技、パワーリフティング、射撃、水泳、卓球、車いすフェンシング、車いすテニス

※新型コロナウイルス感染症の影響で令和2年4月2日(金)~9日(木)に延期になり、さらに令和2年12月10日(木)~17日(木)に変更された。

2. 競技団体が行う強化活動に対する助成(補助)

(1) 助成金(補助金)配分方針

パラリンピック等の競技実績等による基礎配分と、重点強化指定競技への重点配分により、対象競技団体の助成額算出のための基礎資料を作成した。

(2) 対象団体

日本パラリンピック委員会に加盟する以下の競技団体

- 1) 肢体不自由、視覚障がい関連競技団体
- 2) 聴覚障がい関連競技団体
- 3) 知的障がい関連競技団体

(3) 対象事業

選手強化活動事業

1) 選手強化活動事業

競技団体の強化指定選手を対象とした国内外で実施する強化合宿及び海外へのチーム派遣または海外チームの招聘等

2) コーチ力強化事業

海外の優秀なコーチの招聘または海外へのコーチ派遣

3) 競技団体選手強化体制整備事業

競技団体における国際競技力向上のための強化活動にかかる強化委員会等の会議の開催や競技大会の視察及びその他強化体制の整備を図るための事業。

3. 選手強化対策委員会等の開催

障がい者スポーツの国際競技力向上のため、下記の会議を開催した。

- (1) JPC 運営委員会(4回)
- (2) JPC 東京2020 特別強化委員会(4回)
- (3) JPC 強化委員会(5回)
- (4) JPC アスリート委員会幹事会・総会(4回) ※「6. 障がい者スポーツ支援体制の充実」参照
- (5) JPC 女性スポーツ委員会(2回) ※「6. 障がい者スポーツ支援体制の充実」参照
- (6) 用具開発ワーキンググループ(2回)

4. 専任スタッフ等設置事業

パラリンピック競技大会をはじめとする国際競技大会で活躍が期待できる競技者を有する JPC 加盟団体及び当協会に、強化活動全般を統括するナショナルコーチや専任コーチングディレクター、専任メディカルスタッフ、専任情報・科学スタッフ、専任クラシファイア、専任競技パートナー、専任競技用具担当スタッフを設置し、選手の育成・強化を効果的に推進した。また、専任スタッフ

の情報共有のため「専任スタッフ会議」を実施した。

・第2回専任スタッフ会議(令和2年3月6日) ー中止ー

5. 強化活動実施状況の視察

強化活動が効果的に実施されているかを判断するとともに今後の強化計画に反映することを目的として、競技団体が行う強化活動や国内で実施される8競技大会、海外で実施される3競技大会、および16の国内合宿等を視察した。(以下の事業は中止)

※台風19号の影響で中止

・全国障害者スポーツ大会

※新型コロナウイルスの影響で中止

・IWAS ワールドゲームズ 2020 視察 (令和2年2月20日～28日)

・三菱電機 presents 第18回ジュニア選手発掘育成講習会視察
(令和2年3月26日～29日)

・ジャパンパラボッチャ競技大会 (令和2年2月28日～3月1日)

・東京国際視覚障害者柔道選手権大会 2020(令和2年3月7日～8日)

・ジャパンパララグビー競技大会 (令和2年3月12日～15日)

・ブラインドサッカーワールドグランプリ 2020(令和2年3月14日～22日)

6. 国内会議の開催

加盟競技団体等との連携を図る為、下記会議を実施した。

※中止＝新型コロナウイルスの影響で中止

・加盟団体会議 (第1回開催。第2回中止:令和2年3月3日)

・東京2020対策会議 (第1回開催。第2回中止:令和2年3月3日)

・監督・ヘッドコーチ会議 (第1回開催。第2回中止:令和2年3月6日)

・NFトレーナー会議 (2回開催)

・チームドクター会議

7. 強豪国強化拠点視察

今後の強化計画に反映していくために、国際大会で好成績を収めるなど、選手強化施策で成果を上げているイタリアのパラリンピック委員会並びにナショナルトレーニングセンターを視察した。

8. 競技別指導者養成事業・国際資格取得事業

当協会が制定する「公認障がい者スポーツ指導者制度」に基づく講習会以外に、各競技団体における指導者の養成及び資質向上のため、競技別指導者講習会12競技団体・27事業(2事業は新型コロナウイルスの影響により中止)の支援を行った。また、JPC加盟競技団体に対し、海外で開催される国際資格取得・更新講習会7競技団体・10事業への派遣経費助成や、国内講習会開催費用1事業への助成を行った。

9. JPC 医・科学・情報サポート推進事業

JPC加盟団体を対象に、日本代表選手の競技力強化のために、医・科学・情報面の支援および体制構築を行った。また、医・科学・情報サポート研修会として「選手強化のための研修会」および領域別研修会(映像・技術サポート領域)として「総合実技講習会」を開催した。

10. JPC 新人研修事業の実施

パラリンピック実施競技団体で強化指定されて間もない選手を対象に、本研修会を通してアスリートとしての心構えや強くなるための知識等を習得し、将来国際大会で活躍できるアスリートの育成を目的として研修会を2回実施した。

11. アンチ・ドーピング活動の推進

日本アンチ・ドーピング機構および日本スポーツフェアネス推進機構との連携を図り、フェアな競技環境の確保に向けた取り組みを推進した。

- (1) 教育・啓発活動
- (2) 使用薬物指導

12. IPCクラス分け規程の適用

日本アンチ・ドーピング機構および日本スポーツフェアネス推進機構との連携を図り、フェアな競技環境の確保に向けた取り組みを推進した。

- (1) クラス分け規程の国内体制づくり
- (2) 競技団体の国内クラシファイアの教育と育成
- (3) クラス分け活動の推進等
 - ・NFを対象とした連絡会議・ワークショップの開催
 - ・クラス分け部会の開催
 - ・MDF(クラス分け用診断書)作成のための研修会の開催

13. スポーツ国際展開基盤形成事業

・NPC ウガンダ訪問 【新型コロナウイルスの影響で中止】

期日: 令和2年1月26日(日)~30日(木)

場所: ウガンダ

14. 競技団体等の国際活動支援・推進

国内競技団体の国際活動支援や、国際競技大会・国際会議の招致活動推進を目的に、IPCをはじめとする国際組織に加盟し連絡・調整を図るため、下記国際会議に参加した。また、VISTA2021会議の招致を目指して活動を行っていたが、2020東京パラリンピック競技大会が1年延期となったため招致を白紙とした。(「3. 障がい者スポーツの学術的振興」参照)また、IPC・他国パラリンピック委員会等、海外の組織との連携を強化するため、情報共有の機会を積極的に創出するとともに、国際貢献活動の推進を行った。また、IPC・APCをはじめとする国際組織の日本人理事や委員と連携をとり、理事や委員の活動についての支援を行った。

(1) 国際会議への参加

・IPC 合同クラス分け会議

期日: 令和元年年9月8日(日)・9日(月)

場所: オランダ・アムステルダム

・IPC 総会

期日: 令和元年10月26日(土)・27日(日)

場所: ドイツ・ボン

・VIRTUS(旧 INAS)総会
期日:令和元年10月12日(土)
場所:オーストラリア・ブリスベン

・IBSA 総会
期日:令和元年7月5日(金)
場所:アメリカ・フォートウェイン

・VISTA2019 会議
期日:令和元年9月5日(木)~7日(日)
場所:オランダ・アムステルダム

(2) 国際貢献活動の推進

Sports for Tomorrow や AGITOS 財団等との連携を通して国際貢献活動を行なった。

・ImPOSSIBLE 教員研修会

期日:令和元年7月24日(水)~26日(金)/12月2日(月)~5日(木)
場所:ザンビア・ルサカ

・Road to Tokyo 第1回 コーチング講習会

期日:令和元年11月20日(水)~22日(金)
場所:筑波大学

・Road to Tokyo 第2回 コーチング講習会

期日:令和2年2月25日(火)~27日(木)
場所:日本福祉大学

・アフリカ3か国の NPC 協力体制構築支援事業 【新型コロナウイルスの影響で中止】

期日:令和2年3月9日(月)~12日(木)
場所:東京都
参加:ウガンダ、マラウイ、ザンビアの各 NPC

(3) 海外情報収集・提供

選手強化に関連する情報収集および提供を行った。

(4) JPC 国際協力委員会

国際協力に関する JPC の方針を決定し、他国への積極的な国際支援を展開した。

15. ナショナルトレーニングセンターの運営体制への参画

令和元年8月に開設した「味の素ナショナルトレーニングセンター屋内トレーニングセンター・イースト」(NTC イースト)を含めた NTC の運営協議会に参画し、関係する団体とともに、NTC の利用に向けた各種調整及び運営協力を行った。

アクションプラン5. 障がい者スポーツの国民理解の促進

1. 障がい者スポーツの広報

(1) インターネットメディアを活用した最新情報の提供

協会ウェブサイトや Facebook、YouTube 等のインターネットメディアを活用し、障がい者スポーツに関する国内外の最新情報を発信した。

- (2) 広報冊子等を活用した理解促進
季刊誌「NO Limit」をはじめ、障がい者スポーツの歴史や現状、競技紹介・解説冊子等を作成・配布し、障がい者スポーツの理解促進に努めた。
- (3) ジャパンパラ競技大会を活用した理解促進
大会の観戦誘致を行うとともに、観戦者に対して、場内アナウンスやガイドブックによる競技の解説、体験会、選手との交流会等を実施、障がい者スポーツの魅力を体感してもらった。
- (4) メディア媒体との連携・協働による普及啓発
メディア媒体と連携・協働し、障がい者スポーツに関する情報の質を拡充した。
- (5) PRブースの出展
東京マラソン EXPO や共生スポーツ祭り、国民体育大会等のスポーツイベント会場にPRブースを出展し、障がい者スポーツの理解促進に努めた。

アクションプラン6. 障がい者スポーツ支援体制の充実

1. アスリート支援事業

JPC 強化指定選手制度により認定された基準に基づき、強化指定選手の強化活動費等の支援を行った。

アスリート委員会および女性スポーツ委員会の活動を推進した。

(1) アスリート委員会

アスリート委員会の目的、役割、活動内容等を整理し、例示することにより、競技団体ごとの設置に向けた取り組みを促進することを目的として「国内競技団体アスリート委員会設置に向けたガイドライン」を作成をした。

① アスリート委員会幹事会の実施

・第1回

期日：令和元年5月10日(金)

場所：日本障がい者スポーツ協会

・第2回

期日：令和元年7月1日(月)

場所：日本障がい者スポーツ協会

・第3回

期日：令和元年12月3日(火)

場所：日本障がい者スポーツ協会

② アスリート委員会総会の実施

期日：令和元年10月5日(土)

場所：ナショナルトレーニングセンター

(2) JPC 女性スポーツ委員会

女性アスリートの活躍を支援するために JPC 女性スポーツ委員会にて、下記の相談窓口の報告やウェブアンケート調査の実施及び研修会を行った。

1) ジャパンパラ競技大会における「女性アスリートの相談窓口」の実施報告

ジャパンパラ陸上競技大会：令和元年7月20日(場所：岐阜県長良川競技場)

ジャパンパラ水泳競技大会：令和元年9月21日(場所：横浜国際プール)

2) ウェブアンケート調査の実施

- ・期間:令和元年12月16日(月)～令和2年2月14日(金)まで
- ・対象:JPC加盟競技団体に所属する女性アスリート及び女性アスリートを指導する競技団体

3) 監督・ヘッドコーチ会議にて女性アスリートのコンディショニングについての講義

期日:3月6日(金)

場所:ナショナルトレーニングセンター

【新型コロナウイルスの影響で中止】

4) JPC 女性スポーツ委員会の実施

・第1回

期日:令和元年7月12日(金)

場所:日本障がい者スポーツ協会

・第2回

期日:令和2年3月23日(月)

場所:日本障がい者スポーツ協会

2. アスナビ事業(トップアスリートのための就職支援)

世界を目指す現役トップアスリートの就職支援ナビゲーションとして、競技活動に専念できる環境を整えるために、企業からの支援・採用を臨むトップアスリートと採用を検討する企業のマッチングを実現させることを目的に実施した。

(1)採用実績累計 46名(令和2年3月末現在)

(2)説明会

- ・第1回 期日:令和元年5月14日(火) 場所:経団連ホール
- ・第2回 期日:令和元年9月6日(金) 場所:SDYホール
- ・第3回 期日:令和元年11月20日(水) 場所:ナショナルトレーニングセンター

3. 2020年以降を見据えた競技団体の支援体制の検討

日本財団パラリンピックサポートセンターによる支援終了(2022年4月)以降の競技団体の支援体制について検討を始めた。

アクションプラン7. 財政基盤の充実・安定化

1. 国庫補助金と民間助成の獲得

事業実施に必要な体制整備のためには財政基盤の安定が不可欠であり、2019年度も国及び民間助成団体に対し、障がい者スポーツの現況に理解を求め、必要な財源確保に努めた。

2. JPSSAオフィシャルパートナー制度の推進

当協会が目指すビジョンに賛同し、障がい者スポーツの普及・振興施策に参画・協働するJPSSA協賛企業の獲得に努めた。(34社、令和2年1月末現在)

○パートナーズミーティングの実施

- ・ 2019年度第1回パートナーズミーティング(ディレクター)
開催日 令和元年5月30日(木)

場 所 日本障がい者スポーツ協会会議室

参加者 31 社 51 名

- ・ 2019 年度第 2 回パートナーズミーティング(ディレクター)

開催日 令和元年 12 月 19 日(木)

場 所 日本障がい者スポーツ協会会議室

参加者 31 社 50 名

- ・ 2019 年度 JPSA パートナーズミーティング(エグゼクティブ)

開催日 令和 2 年 2 月 20 日(木)

場 所 ロイヤルパークホテル

参加者 29 社 56 名

3. 民間資金の獲得

オフィシャルパートナー企業以外の民間からの活動資金獲得に努めた。

アクションプラン8. 協会の組織体制の強化

1. 組織体制の強化

評議員会、理事会、JPC 運営委員会等における専門性確保の観点から委員等の多様性を確保した。

2. 2020 年以降を見据えた協会の在り方検討

登録・加盟競技団体規程の見直し、日本スポーツ協会との連携、統括競技団体である全日本ろうあ連盟スポーツ委員会やスペシャルオリンピックス日本、全日本知的障がい者スポーツ協会等との連携と協働を図っている。

3. パラリンピック実施競技団体の登録システムの運用

競技団体および選手の情報を登録システムにより管理し、選手派遣等関連業務の効率化を図った。

アクションプラン9. クリーンでフェアなスポーツの推進

1. スポーツ・インテグリティ確保に向けた取り組み

平成 30 年 12 月 20 日にスポーツ庁が発表した「スポーツ・インテグリティ確保に向けたアクションプラン」に謳われた「スポーツ団体ガバナンスコード(以下「コード」)」が、スポーツ審議会での議論を経て、令和元年 6 月 10 日に策定された。令和 2 年度よりコードに基づく競技団体の適合性審査が始まることを受け、適合性審査を担当する統括 3 団体(日本スポーツ協会、日本オリンピック委員会、当協会)は、連携して適合性審査の実施スキーム等の検討を進めるとともに、関係者に対する説明会を開催し、ガバナンスコードの内容と適合性審査に関する理解の促進を図った。また、スポーツの価値を護るため、協会に設置した相談窓口の適切な運用に努めた。

(1) 研修会

開催日時 令和元年8月30日(金)13:30~16:00

開催場所 ベルサール東京日本橋 Room3+4+5

研修内容・講師

○スポーツ庁挨拶 スポーツ庁 専門官 高草木 伸 様

○スポーツ団体ガバナンスコードについて (公財)日本障がい者スポーツ協会

○講師講演 「ガバナンスコード策定を踏まえて各中央競技団体に求めること」

スポーツ審議会スポーツ・インテグリティ部会 専門委員

弁護士 井口 加奈子 様

参加者 JPC 加盟競技団体 56名、JPSA 登録競技団体 10名、

JPSA 登録スポーツ協会 29名 合計 95名

(2) 説明会

開催日時 令和元年12月23日(月)14:00~15:30

開催場所 日本財団パラリンピックサポートセンター 会議室

説明内容 スポーツ団体ガバナンスコード適合性審査に関する説明

参加者 JPC 加盟競技団体 55名、その他関係者 18名 合計 73名

2. 組織ガバナンスの徹底とコンプライアンスの遵守

競技団体における組織ガバナンスの徹底とコンプライアンスの遵守について、研修会等を開催し啓発に努め、また、協会に設置した「スポーツにおける暴力行為・不正行為等相談窓口」の周知と事案への適切な対応を行った。

3. 東京2020パラリンピック競技大会実施競技の強化選手向け研修会(インテグリティ研修会)

世界を舞台に戦うJPC強化指定選手等の資質・インテグリティ(誠実さ、真摯さ、高潔さ)を高め、自らの価値やパラリンピックの価値を守る知識と手段、正しい倫理観や道徳心を有するアスリートを育成することを目的に実施した。 ※第4回~第6回は「新型コロナウイルスの影響で中止」となり、受講できなかった選手に向け研修内容を撮影しオンラインで研修を実施した。

回数	期 日	場 所
第1回	令和2年2月8日(土)	パナソニックセンター
第2回	令和2年2月9日(日)	日本大学文理学部キャンパス
第3回	令和2年2月11日(祝・火)	パナソニックセンター
第4回※	令和2年2月28日(金)	ナショナルトレーニングセンター
第5回※	令和2年3月7日(土)	日本大学文理学部キャンパス
第6回※	令和2年3月8日(日)	日本大学文理学部キャンパス

アクションプラン10. スポーツを通じた女性活躍の促進

ブライトンヘルシンキ宣言への署名を踏まえ、女性のスポーツに関する環境の充実および改善を通じ、女性のスポーツへの参画を促進する。

JPC 女性スポーツ委員会の開催。(アクションプラン6.「障がい者スポーツ支援体制の充実」参照)

アクションプラン11.東京 2020 大会に向けた活動

1. JPSA 主催ジャパンパラ競技大会 (※「テストイベント(東京大会会場)」)

競技名	開催日	会場
陸上競技	令和元年7月20日(土)～21日(日) 海外選手参加(一部招待)	長良川競技場(岐阜市) 観客数 2,582 名
水泳	令和元年9月21日(土)～23日(月) 海外選手参加(一部招待)	横浜国際プール(横浜市) 観客数 5,629 名
※ゴールボール	令和元年9月28日(土)～29日(日) 参加国: アメリカ・ブラジル	幕張メッセイベントホール (千葉市) 観客数 4,636 名
※ボッチャ (中止)	令和2年2月28日(金)～3月1日(日) 参加国: 韓国・香港・ロシア・フランス・スロバキア ドイツ・ブラジル・コロンビア・カナダ (日本含め 10 か国)	有明体操競技場(江東区)
※車いすラグビー (中止)	令和2年3月12日(木)～15日(日) 参加国: オーストラリア・アメリカ・イギリス	代々木第一体育館(渋谷区)

2. パラリンピック競技: JPSA 主催・共催国際大会 (※同上)

(1) 天皇陛下御即位三十年記念 天皇杯・皇后杯 第35回飯塚国際車いすテニス大会 (JAPAN OPEN)

開催日 平成31年4月23日(火)～28日(日)

開催場所 筑豊ハイツ(福岡県飯塚市)

参加者数 100名(16か国・地域)

(2) 天皇杯第47回日本車いすバスケットボール選手権大会

開催日 令和元年5月10日(金)～12日(日)

開催場所 武蔵野の森総合スポーツプラザ(東京都府中市)

参加者数 8チーム

(※)5月11日(土)、12日(日)の両日、JPSA 主催の「共生スポーツ祭り」を開催

(3) シットティングバレーボールチャレンジマッチ 2019

開催日 令和元年5月23日(木)～26日(日)

開催場所 千葉ポートアリーナ(千葉県千葉市)

参加者数 4チーム(日本、中国、カナダ、イタリア)

(4) TTF パラ卓球ジャパンオープン

開催日 令和元年8月1日(木)～3日(土)

開催場所 港区スポーツセンター(東京都港区)

参加者数 182名(約23か国)

(5) 三菱電機 WORLD CHALLENGE CUP 2019(車いすバスケ)

開催日 令和元年8月29日(木)～9月1日(日)

開催場所 武蔵野の森総合スポーツプラザ(東京都府中市)

参加者数 男子4チーム(日本、オーストラリア、イラン、韓国)

女子2チーム(日本、オーストラリア)

(6) 車いすラグビーワールドチャレンジ 2019

開催日 令和元年10月16日(水)～20日(日)

- 開催場所 東京体育館(東京都渋谷区)
 参加者数 8チーム(オーストラリア、アメリカ、日本、カナダ、イギリス、フランス、
 ニュージーランド、ブラジル)
- (7) READY STEADY TOKYO パワーリフティング ※
 開催日 令和元年9月26日(木)～27日(金)
 開催場所 東京国際フォーラム(東京都千代田区)
 参加者数 男子44名 女子23名 計67名(13か国)
- (8) ヒューリック・ダイハツ JAPAN パラバドミントン国際大会 2019 ※
 開催日 令和元年11月13日(水)～17日(日)
 開催場所 代々木第一体育館(東京都渋谷区)
 参加者数 250名(38か国)
- (9) ブラインドサッカーチャレンジカップ 2019
 開催日 令和元年12月8日(日)
 開催場所 町田市立総合体育館(東京都町田市)
 参加者数 日本代表、モロッコ代表
- (10) 東京国際視覚障害者柔道大会2020—中止—
 開催日 令和2年3月8日(日)
 開催場所 講道館(東京都文京区)
- (11) ブラインドサッカーワールドグランプリ 2020—中止—
 開催日 令和2年3月14日(土)～22日(日)
 開催場所 品川区天王洲公園(東京都品川区)

3. JPSA 共催大会

- (1) かすみがうらマラソン兼国際盲人マラソン 2019
 開催日 令和元年4月19日(日)
 開催場所 川口運動公園周辺(茨城県土浦市)
 参加者数 男子95名、女子39名 計134名
- (2) 文科大臣杯第32回日本車いすツインバスケットボール選手権大会
 開催日 令和元年6月22日(土)～23日(日)
 開催場所 墨田区総合体育館(東京都墨田区)
 参加者数 12チーム
- (3) 第39回大分国際車いすマラソン大会
 開催日 令和元年11月16日(土)～17日(日)
 開催場所 大分市内
 参加者数 236名(19か国)
- (4) 皇后杯第30回日本女子車いすバスケットボール選手権大会
 開催日 令和2年1月12日(日)～13日(月・祝)
 開催場所 グリーンアリーナ神戸(兵庫県神戸市)
 参加者数 8チーム
- (5) 2020パラアルペンスキー競技大会アジアカップ
 開催日 令和2年2月12日(水)～16日(日)
 開催場所 菅平パインビークスキー場(長野県上田市)

(6) 天皇杯第31回車いす駅伝競走大会—中止—

開催日 令和2年3月7日(土)～8日(日)(予定)

開催場所 京都市内(京都府京都市)

4. 東京2020特別強化委員会を通じた特別強化選手・チームへの支援

東京2020大会の「日本代表選手の大活躍(金メダルランキング7位)」という目標を達成するため、2017年1月に設置した「東京2020大会特別強化委員会」において、来る東京大会での金メダル獲得に向け、特別強化選手・チームを選考し、各選手・チームの要望に沿った支援策を実行した。

5. 東京2020大会に向けたパラリンピック競技団体への支援

東京2020大会の「日本代表選手の大活躍(金メダルランキング7位)」および「全競技会場の満員」という目標を達成するため、東京2020大会の22競技団体に対し、選手強化に向けたコーチ・スタッフ費用、海外遠征・合宿の経費等に対し、東京2020活動強化費用支援を行った。

6. パラスポーツ・ファンの拡大を目指した情報発信機能の充実

- (1) ジャパンパラ競技大会やその他 JPSA 主催・共催国際大会を活用したパラスポーツの普及・啓発活動を実行する。とりわけ、2019年秋からスタートした、東京2020大会のテストイベントとして展開するジャパンパラ競技大会は、東京2020大会本番の会場を使用することから、その効果を最大限活用してファン拡大施策を企画・実施した。残念ながら2020年2月以降は、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、ボッチャ・車いすラグビーのジャパンパラ競技大会(テストイベント)が相次いで中止に追い込まれ、実施にまで至らなかった。
- (2) (1)に加えて、①JPSA オフィシャルパートナーとの連携強化、②ウェブサイトや SNS 等による情報発信、③報道機関との連携・強化による情報の質・量の向上、④かんたんガイドブックの発行⑤1年前のタイミングに合わせた「夏季22競技ガイド」の発行を含むパラスポーツ広報媒体の充実、等を積極的に展開した。

アクションプラン12. 東京2020大会のレガシー継承

1. 日本財団パラリンピックサポートセンターによる支援終了(2022年4月)以降の競技団体の支援体制検討(アクションプラン6.「障がい者スポーツの支援体制の充実」参照)

2. パラリンピック教育の推進

教育レガシーの推進(アクションプラン1.「スポーツの一元化」参照)

その他

1. スポーツ庁、日本スポーツ協会、日本オリンピック委員会、日本スポーツ振興センターとの連携強化
- (1) 生涯スポーツ・体力づくり全国会議2020(スポーツ庁主催)
開催日 令和2年2月7日(金)
会場 松江しんじ湖温泉 ホテル一畑

- (2) 生涯スポーツ推進委員会(公益財団法人日本スポーツ協会主催)
- (3) 全国スポーツ指導者連絡会議(公益財団法人日本スポーツ協会主催)
- (4) 文部科学省障害者スポーツ推進タスクフォース(スポーツ庁主催)
- (5) TAFISAコンGRES 2019 実行委員会(日本スポーツ協会主催)
 - 第 26 回 TAFISA ワールドコンGRES 2019 東京
 - 開催日 令和元年 11 月 13 日(水)～16 日(土)
 - 会 場 都市センターホテル
- (6) スポーツ庁、日本スポーツ協会各種会議への参加・参画
 - ・ スポーツ審議会
 - ・ スポーツ政策の推進に関する円卓会議
 - ・ スポーツ国際戦略会議
 - ・ 東京 2020 パラリンピック競技大会参加国最大化計画
 - ・ オリンピック・パラリンピック教育全国中核拠点会議
- (7) JOC・JPC・JSC の連携の為に設置された「協働チーム」に参画し、競技団体に対するコンサルテーション等を実施した。
- (8) 選手発掘事業「J-STAR プロジェクト」への参画

日本スポーツ協会(JSPO)を中心に、JSC、JOC、パラリンピック競技団体等の関係団体と連携して各地で選手発掘プログラム(測定会、トレーニング合宿での検証)を展開した。本事業を通じて、パラリンピック競技大会に向けて有望なアスリートを発掘し、競技団体の育成・強化コースに導いた。

2. 会議開催等

(1) 理事会・評議員会の開催

1) 評議員会

○定例評議員会

日時 令和元年 6 月 21 日(木) 13:30～16:00

議題 平成 30 年度決算報告書(案)について
 評議員の改選に伴う評議員候補者(案)について
 理事の改選に伴う理事候補者(案)について
 監事の改選に伴う監事候補者(案)について

○臨時評議員会

日時 令和元年 12 月 9 日(月) 13:30～15:30

議題 報告事項のみ

2) 理事会

○定例理事会

日時 令和元年 6 月 6 日(木) 13:30～15:30

議題 平成 30 年度事業報告(案)について
 平成 30 年度決算報告書(案)について
 評議員改選に伴う評議員候補者(案)について
 理事改選に伴う理事候補者(案)について
 監事改選に伴う監事候補者(案)について
 日本パラリンピック運営委員会委員の委嘱について

○臨時理事会

日時 令和元年6月21日(金)16:10~16:40

議題 人事案件について

2019年度公益財団法人JKA競輪補助事業の受託(案)について

○定例理事会

日時 令和元年9月25日(水)13:30~15:30

議題 2019年度臨時評議員会の招集(案)について

○定例理事会

日時 令和元年11月28日(木)13:30~15:30

議題 2020年以降の日本パラリンピック委員会の体制の検討について

特定費用準備資金等取扱要領の制定について

○定例理事会

日時 令和2年3月19日(木)13:30~15:30

議題 令和2年度事業計画(案)について

令和2年度収支予算書(案)について

スポーツ団体ガバナンスコードに係る日本障がい者スポーツ協会の自己説明等
について

令和2年度定時評議員会の招集(案)について

(2)2019年度三協議会(障がい者スポーツ協会協議会、障がい者スポーツ指導者協議会お
よび障がい者スポーツ競技団体協議会)会議の開催

1)合同会議—中止—

日時 令和2年3月3日(火)12:00~15:30

場所 ベルサール東京日本橋

2)障がい者スポーツ info2020—中止—

日時 令和2年3月4日(水)10:00~12:00

場所 ベルサール東京日本橋

(3)専門委員会(技術委員会・医学委員会・科学委員会)の開催

(4)表彰等

会長表彰等(特別功労章、功労章、特別賞、感謝状)

その他の顕彰

(5)障がい者スポーツ指導者協議会運営委員会、研修部会、情報部会、指導部会の開催